

ゴルフにおける個人のパッティング技術の考え方が パッティング結果に及ぼす影響

今江 弘樹 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 北村 哲

キーワード：距離感，方向性，考え方

1. 緒言

木村 (2013) は，ゴルフの総スコアの3分の1はパッティングが占めていると述べるように，パッティングは非常に重要な技術である。しかしながら，「パッティングはセンス」などとも言われ，パッティング技術の方法論は十分に整理されていない。

そこで本研究は，パッティング技術において重要とされる距離感や方向性 (小野寺，2014) と動作の打ち方の3つの要素について，ゴルファーの考え方がパッティング結果にどのような影響を及ぼすのかを調査することで，パッティングに関する知見を蓄えることを目的とした。

2. 研究方法

「一流選手は自分の行った運動を細部まで報告できる」という金子ほか (1997) の知見を基に，次の3つの仮説を立て検証した。

- ① パッティングの際の「考え」の数が多いほどパッティング結果が良い。
- ② パッティングにおいて重要な方向，距離感，打ち方の3要素において，特に重要な要素があり，それがパッティング結果に影響している。
- ③ パッティングの考え方において「曖昧な考え」は，パッティングパフォーマンスに悪影響を及ぼす。

1) 対象

「近江ゴルフクラブ」に來ている男女 20歳～60歳までのアマチュアゴルファー30名。

2) 調査内容

①パッティングテストとして，「近江ゴルフクラブ」の練習グリーンでフックラインのショ

ートパット (2m) を 5 球打球した結果について，カップイン確率を算出した。

②実験時のパッティング技術についての「考え」について，インタビュー調査を行い，KJ法を用いてコード化し考えの数を集計した。

③上記①②の結果についてその関係性について統計処理を用いて検討した。

3. 結果と考察

①カップイン確率と技術の「考え」の総数について相関係数を算出した結果，両者には関係が見られなかった ($r=0.35$)。次に②パッティングで重要な3要素に「考え」を分類し，各カテゴリーにおける「考え」の総数とカップイン確率の関係性について検討した結果，全ての要素において関係性は見られなかった。しかし，③距離感において「曖昧な」感覚表現がある者は，表記のない者 (59%) に比べカップイン確率 (47%) が低かった ($47% < 59%$, $p < 0.05$)。以上から，パッティングにおいて，技術に対する「考え」の総数よりもより具体的な「考え」を持つて行うことが重要であることが示唆された。

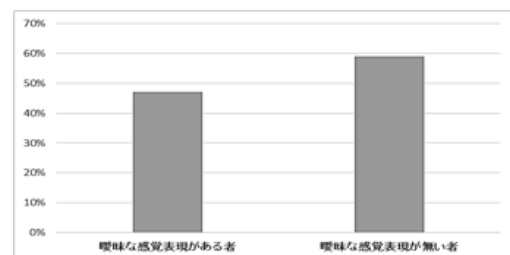


図1 曖昧な感覚表現の有無によるパッティング確率の平均

主な文献

金子明友 (2014) 運動学講義. 大修館書店：東京，pp. 129-130.

木村玄一 (2013) アンビリーバボーのパット術. ゴルフダイジェスト社：東京.